2025年9月14日午前10時30分
聖霊降臨節第15主日 主日礼拝 (地区講壇交換)
司会 伊藤愛子
奏楽 川名ひさ子

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあきつ)
前奏
招きのことば 伝道の書(旧口語訳)3:10-11
讚美歌 58「み言葉をください」 一同
交読詩編 104:24-35(P.118/114)

祈り 司会者
《関東教区お祈りカレンダー》
塩谷一粒教会 氏家教会 上三川教会
(主の祈り)

讚美歌 474「わが身ののぞみは」 一同

聖書 新約:マタイ13:44-52(P.26)
新約:第1コリント15:35-52(P.321)

メッセージ『究極の希望』
祈り 石田透牧師

讚美歌 575「球根の中に」 一同

献金 一同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(ドン・ボスコ) 一同

頌栄 204(4)
祝禱 石田透牧師
後奏
報告・紹介

<招きのことば> 伝道の書(旧口語訳)3:10-11
わたしは神が人の子らに与えて、ほねおらせられる仕事を見た。神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終わりまで見きわめることはできない。

《9月礼拝当番》 徳島恵子 畠中祥世
岸久美子 野村敏子
野村竜也 服部直子

《今週の集会・行事》
◎ 本日 9:15 CS朝礼拝
◎ 本日礼拝後 カレー食堂 2Fホール
石田牧師・宮希望さんを囲んで交流のとき
◎ 本日-15日 牧師、これもさんびか合宿(町田)
◎ 16日(火) 牧師、育心こども園
◎ 18日(木) 10:30 婦人会例会
◎ 19日(金) 10:00 会堂清掃(C組)
◎ 19日(金) 牧師、共愛学園理事会
◎ 20日(土) 午前 恵老愛餐会 準備

《次週の主日》
◎ 主日礼拝 10:30 (恵老礼拝)
メッセージ『最後に残る祈り』
聖書:新約:マタイ6:5-13(P.9)
讚美歌 旧50, 旧393, 旧308, 旧542
交読詩編 90:1-12(P.104/100)
司会:畠中祥世 奏楽:金井文子
◎ 恵老愛餐会 礼拝後
◎ 群馬地区委員会 15:00 安中教会

《予告》
◎ CS午後礼拝 28日(日)13:00
◎ 聖研祈禱会 10/1日(水)10:30 & 19:30
◎ 世界聖餐日 & 10月役員会 10/5(日)
◎ 地区「みんなの集い」10/13(月) 於・前橋教会

《報告》
◎ 本日は地区講壇交換です

石田透牧師 1953年生、横浜市出身。明治学院大学法学部・同志社大学神学部卒業。大森めぐみ教会(めぐみ幼稚園)・高崎南教会・美唄教会(美唄めぐみ幼稚園)・杉並教会(杉並教会幼稚園)・原宿教会(原宿幼稚園)・甘楽教会(甘楽こひつこども園)にて宣教牧会及びキリスト教幼児教育に携わる。子ども5人、孫3人。現在は甘楽教会の牧師館にて妻と二人暮らし。大洋ホールズ時代から横浜DeNAベイスターズ(プロ野球)を、横浜フューゲルス時代から横浜FC(U-1)の応援続けている。

本日は教会員の宮希望さんとの来会です。前橋教会からは川上牧師と植松みよさんが甘楽教会の礼拝に出かけています。

◎ 次週は恵老礼拝・愛餐会です

75歳以上の方々を覚え、神の祝福を祈る礼拝です。今年75歳を迎える方には教会からささやかなプレゼントがあります。礼拝後は2Fで愛餐会です。75歳以上ご招待、それ以外は300円会費です。祝福者の愛唱賛美歌やそれ以外の歌、ゲームなどで楽しく過ごします。愛餐会に参加される方は、準備の都合がありますので、必ずお申込み下さい。(本日中)

◎ 教会屋根・大規模改修の課題

先週ご報告した通り、教会屋根に今後雨漏りにつながる可能性のある傷みが見つかり、今の建物を長く使うためには大規模修復が必要な状況となっています。ただし多額の費用を要するため、役員会でも慎重に審議しています。まだ結論には至っておりませんが担当者で協議を重ね、今月中には何らかの方向性を示せればと思っています。教会の未来に向けてよき道が示されますようお祈り下さい。

◎ 群馬地区「みんなの集い」(10月13)

地区教育部主催、前橋教会で開催です。みんなでピザを焼いていただきます。掲示板のチラシをご覧ください。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	42	21	25,550

《メッセージ》「苦しみの中で希望を抱く」川上 盾牧師
ノバツク 3:17-19, ローマ 8:18-25(9月7日)
▼キリスト教信仰や人間の精神の最も強くて尊いところは何だろうか?いろいろな考えられるが、その一つが「絶望的な苦難の中でもなお希望を抱くことのできる力」ではないかと思う。▼V.フランクルの「夜と霧」の中に、ナチスの強制収容所での印象に残るエピソードが紹介されている。一日の労働を終え帰る道で、見事な夕陽を見て「世界は何と美しいのだろう」と感激した体験だ。収容所の現実には世界最悪の状況である。そんな中でも人間は感動する心を持つことができる。フランクルは「この経験は、この世のどんな力もそれを奪うことができない」と記している。▼ノバツク15「ピロソ捕囚に向かう状況の中で「いちじくの木に花は咲かず、ぶどうの枝は実をつけぬ」と嘆く。しかし続く言葉で「しかし私は主によって喜び、救いの神ゆえに踊る」と語るのだ。それが『視点の転換』である。「自分にとっての世界」という視点の中では苦しい現実であるが、「神の造られた世界の中の自分」と視点を置き換えることで、救いの道が示されるのだ。▼パウロは「現在の苦しみは、やがて現わされる栄光に比べると、取るに足りない(直訳=重さが少ない)」(8:18)と記す。「栄光」とは小さな被造物である自分が神の子とされる約束だ。信じれば苦難がなくなったり、いっぺんに快樂に変わるわけではない。やがて得る栄光に比べれば、重さが少なく感じることだ。▼ノバツクパウロも、「自分」ではなく「神」を基軸に置くことで希望を取り戻す。「見えない約束や神の救いをどうやって確認できるのか!?!」という反応があるかも知れない。それに対しては「見えないことだからこそ「信じる」のでないか」と応じたい。▼パウロは「私たちは見えないものを望み、忍耐して待ち望む」(8:25)と記す。他の手紙では「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と述べる(IIコリント4:18)▼パウロ自身の生涯も、苦難の連続であった。元はファリサイ派の律法学者として、自分のステイタスを誇ることを第一にしていた彼が、イエス・キリストに出会い、隣人を愛しその救いのために命を投げ出す生き方に衝撃を受け、回心して伝道者となった。それ以降はユダヤ人やローマ帝国からの迫害、加えて持病を抱えながら苦難の連続の旅を続けた。▼しかしそれにも関わらず、彼の人生には喜びが溢れていた。自分ひとりの成功を喜ぶのではなく、隣人と共に生きる豊かさを知ったからだ。パウロもまた神によって、そしてキリストによって『視点の転換』を与えられたのだ。▼生きる限り苦しみや悩みはつきまとう。しかしそんな中でも「私は神の造られた素晴らしい世界の中で生かされている」と信じる時、そこに希望が生まれる。▼TVドラマ『あんぱん』の、たかしの父親の言葉。「泣いても笑っても、陽はまた昇る。たかし、絶望の隣りにゃあ...希望ぜよ!」